

2021年2月8日

厚生労働省 健康局
局長 正林 督章 殿

予防接種推進専門協議会
委員長 岩田 敏



不活化ポリオワクチン（ソークワクチン）および沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン追加接種の定期接種化に関する要望

参加学術団体（22団体）：

(公社) 日本小児科学会	(公社) 日本小児保健協会
(公社) 日本産科婦人科学会	(公社) 日本小児科医会
(公社) 日本産婦人科医会	(公社) 日本婦人科腫瘍学会
(一社) 日本感染症学会	(一社) 日本呼吸器学会
(一社) 日本渡航医学会	(一社) 日本保育保健協議会
(一社) 日本耳鼻咽喉科学会	(一社) 日本プライマリ・ケア連合学会
(一社) 日本環境感染学会	(一社) 日本老年医学会
(一社) 日本性感染症学会	(一社) 日本小児期外科系関連学会協議会
(一社) 日本女性医学学会	

日本ワクチン学会 日本ウイルス学会 日本細菌学会

日本臨床ウイルス学会 日本嫌気性菌感染症学会

(順不同)

時下 益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。平素より予防接種推進専門協議会が取り組んでおりますワクチンで予防が可能な疾患（Vaccine Preventable Disease, VPD）に対する予防接種推進に向けた活動に格段のご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また新型コロナウイルス感染症対策において、厚生労働省挙げて、ご尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

日本では、新型コロナウイルス感染症が流行する以前から、定期接種化が議論されている幾つかの VPD があります。新型コロナウイルス感染症対策については引き続き注力が必要な状況ですが、並行して、国際的な人の往来に関する制限緩和や社会経済活動の再開が始まっています。今後、国際的交流の再開による海外からの感染症流入リスクの顕在化、国内の人々の移動や接触の増加による感染症伝播リスクの再燃が予想されます。よって、特に以下の疾患に対し

ては、前向きなワクチン追加接種対策を早期に検討して戴きたいと考えます。

1. ポリオ（急性灰白髄炎）：

ポリオは罹患するとしばしば永続的な後遺障害をきたし、場合によっては死に至る、効果的な治療法の無い VPD です¹。2020 年 8 月に WHO によりアフリカ地区で野生株ポリオウイルス消滅が認定されるという明るいニュースもありましたが²、世界全体では野生株による麻痺症例数はここ数年で増加傾向がみられ、更にワクチン由来ポリオウイルス（Vaccine-Derived Polioviruses, VDPV）の伝播は 20 カ国以上に及び、より大きな問題となっています³。

WHO による「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」の宣言は、ポリオに関しては 2014 年 5 月以来継続しており、流行国への渡航者には事前のポリオワクチン追加接種が推奨されている状況です⁴。2019 年は日本と多くの往来があるフィリピンで伝播型（circulating）VDPV（cVDPV）の流行が起き、隣国のマレーシアにも伝播しました⁵。

日本は 2012 年に定期接種の生ワクチンを不活化ワクチンに変更しました。その課題として、不活化ワクチンの特徴である防御免疫の持続期間の問題が残っています。国立感染症研究所発表の感染症流行予測調査「年齢/年齢群別のポリオ抗体保有状況, 2019 年」では 2020 年 7 月暫定値として、全体的に 3 歳以降に抗体保有率が低下し始め、特にポリオウイルス 1 型に関しては発症防御レベルとされる中和抗体価で 8 倍を示す割合は 5～6 歳で 80% 台でした⁶。

日本小児科学会⁷と日本プライマリ・ケア連合学会⁸は、既に各々の推奨予防接種スケジュールにて 5～6 歳での不活化ポリオワクチンの追加接種を推奨して参りました^{7, 8}。厚生科学審議会（予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会 ワクチン評価に関する小委員会）でも既に議論は進んでおり、議事録によると、就学前の追加接種の必要性を唱える委員が多く、大きな懸念事項は提示されていないと伺えます⁹。

将来を担う世代への確実な免疫付与、国際的な往来再開に伴うポリオ流入リスク増大への備えという両観点から、就学前の不活化ポリオワクチン（ソークワクチン）追加接種の早々な定期化を要望いたします。

2. 百日咳：

低年齢小児が罹患すると二次性の肺炎や肺高血圧症、けいれんや脳症を合併することがあり、特にワクチン未接種の新生児や乳児早期では無呼吸発作による突然死など重篤化が高い頻度で認められる疾患です。百日咳は、日本の乳幼児を守る為に更なる対策が必要な VPD であり、沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合（DPT）ワクチンによる追加接種の定期接種化を要望いたします。

2018 年 1 月 1 日から、国内の百日咳サーベイランスは、すべての医師が届出を行う 5 類全数把握対象疾患へと変更されました。それにともない、日本の百日咳の疫学がより明らかになってきています。2018 年 12 月 31 日～ 2019 年 12 月 29 日での集計データでは、6 か月未満、7 歳をピークに 5～15 歳、成人は 40 代の者に患者が集積しており、重症化し易い乳幼児への感染経路として同胞からの伝播により感染したケースが多い事もわかってきました¹⁰。

また国立感染症研究所による「国内における百日咳流行株の分子疫学」からは、近年わが国では欧米の流行株である MT27 株が増加し、国内流行株の集団構成は欧米先進国のものへと変化しているとの知見も述べられており、百日咳の感染拡大も国際的な人の往来と無縁ではない事が示唆されています¹¹。

現在までに日本小児科学会⁷と日本プライマリ・ケア連合学会⁸が中心となり、ワクチンの効果が減弱しはじめる就学前の DPT ワクチン追加接種と、思春期に於ける沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド (DT) ワクチンから DPT ワクチンへの変更を推奨してきました。感染力の高い百日咳菌に対する予防を確実に行うためには、高い予防接種率を維持することが重要です。現状の日本での百日咳流行の年齢層にも鑑み、就学前の沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン追加接種の早々な定期化を要望いたします。

参考文献

1. 国立感染症研究所 ポリオワクチンに関するファクトシート (平成22年7月7日版)
<https://www.mhlw.go.jp/stf2/shingi2/2r9852000000bx23-att/2r9852000000bybl.pdf>
2. Global polio eradication initiative applauds WHO African region for wild polio-free certification
<https://www.who.int/news/item/25-08-2020-global-polio-eradication-initiative-applauds-who-african-region-for-wild-polio-free-certification>
3. Global polio eradication initiative Polio this week
<http://polioeradication.org/polio-today/polio-now/this-week/>
4. Statement of the twenty-fifth polio IHR Emergency Committee 23 June 2020
<https://www.who.int/news/item/23-06-2020-statement-of-the-25th-polio-ihremergency-committee>
5. 世界ポリオ根絶計画の現状と病原体サーベイランス (IASR Vol. 41 p21-23: 2020年2月号)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/2499-related-articles/related-articles-480/9421-480r03.html>
6. 国立感染症研究所 感染症流行予測調査グラフ
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/y-graphs/667-yosoku-graph.html>
7. 日本小児科学会 日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール 2020年10月1日更新
http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=138
8. 日本プライマリ・ケア連合学会 こどもとおとなのワクチンサイト 2020年10月1日更新
https://www.vaccine4all.jp/shared/files/vaccine_A4_0_19.pdf
9. 厚生科学審議会 (予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会 ワクチン評価に関する小委員会) 議事録等

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-kousei_284965.html

10. 国立感染症研究所 2019年第1週から第52週までにNESIDに報告された百日咳患者のまとめ(2019年第52週週報データ集計時点)

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/pertussis/pertussis-200306.pdf>

11. 国立感染症研究所 国内における百日咳流行株の分子疫学 (IASR Vol. 40 p3-4: 2019年1月号)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/2438-related-articles/related-articles-467/8543-467r01.html>